

シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校

作業療法学科 4年

2026年度

シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤ 年度	学 期	⑦	
年 次	⑥ 年次	授業回数	⑧ 回	
単 位 数	単 位	単位時間数	時 間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

③ 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけでなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

⑤開講年度

⑥年次

授業を受ける学年です。

⑦学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑧授業回数

⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習→授業→復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

【授業を受ける前に】

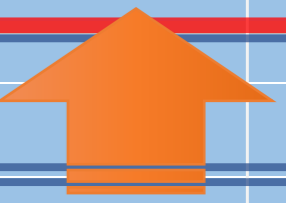
1. 科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2. 授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3. 各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4. 使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5. 「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6. 「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7. 提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

2020年度入学生～

作業療法学科
カリキュラム・マップ

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎科学・基礎医学（共通科目）	医学に総合的に関係する知識	心理学 物理学 英語Ⅰ 生物学 情報科学 統計学 人間関係 福祉論	英語Ⅱ		公衆衛生学 人間発達学				
	医学基礎	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ	解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ 生理学実習 運動学Ⅰ 運動学実習Ⅰ	運動学Ⅱ 運動学実習Ⅱ					
	疾病と障害に関係する知識		病理学 臨床心理学	医学概論・一般臨床医学 臨床神経学Ⅰ 精神医学Ⅰ 内科学・老年学 言語聴覚療法	整形外科学 臨床神経学Ⅱ 精神医学Ⅱ	薬理学			健康科学 栄養学
	リハビリテーションの成り立ち	リハビリテーション概論		リハビリテーション医学					
	臨床実習		基礎実習				評価実習 評価実習セミナー	臨床実習 臨床実習セミナー	
基礎作業学・作業療法学（専門科目）	作業療法の知識の統合							基礎知識の統合 卒業研究	
	作業療法の成り立ち	作業療法概論							
	作業療法の基礎・基本		基礎作業学総論Ⅰ 基礎作業学実習Ⅰ	基礎作業学総論Ⅱ 基礎作業学実習Ⅱ	基礎作業学実習Ⅲ			管理運営研究論	
	作業療法の評価・治療			【身体障害領域】	身体の評価Ⅰ 身体疾患と障害Ⅰ	身体の評価Ⅱ 身体疾患と障害Ⅱ	身体疾患と障害Ⅲ		
				【精神障害領域】	精神の評価Ⅰ 精神疾患と障害Ⅰ	精神の評価Ⅱ 精神疾患と障害Ⅱ	精神疾患と障害Ⅲ		
			【発達障害領域】	発達の評価Ⅰ	発達の評価Ⅱ	発達の構築			
			【老年期障害領域】			老年期障害			
			【総合・地域】	家族機能の評価	家族機能の再構築 地域作業療法学Ⅰ 生活の再構築 治療環境の構築		地域作業療法学Ⅱ		
			【実習】	作業療法評価学実習Ⅰ	作業療法評価学実習Ⅱ 作業治療学実習Ⅰ 地域作業療法学実習	作業治療学実習Ⅱ			



授業科目名	健康科学		実務経験講師	○
担当教員名	大出 理香		実務経験	管理栄養士
開講年度	2026 年度	学 期	後期	
年 次	4 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	リハビリテーション計画を作成することにより、栄養の必要性について学ぶ。			
授業科目の到達目標	これまでに学習した知識や実習での学びを振り返りつつ、臨床で必要になる知識を理解する。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	健康の意義 健康施策、リハビリテーション計画症例	講義	
2	健康な食生活、睡眠指針	講義	
3	症例評価項目検討	グループワーク	
4	リハビリテーション栄養	講義・グループワーク	
5	リハビリテーション計画立案のための評価	講義・グループワーク	
6	サルコペニア	講義・グループワーク	
7	フレイル	講義・グループワーク	
8	メタボリックシンドローム	講義・グループワーク	
9	ロコモティブシンドローム	講義・グループワーク	
10	リハビリテーション計画立案	グループワーク	
11	リハビリテーション計画立案	グループワーク	
12	リハビリテーション計画立案	グループワーク	
13	リハビリテーション計画立案	グループワーク	
14	リハビリテーション計画発表	発表	
15	グループワーク総評、振り返り、計画修正	グループワーク	

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	生理学
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	レポート課題(30%)・グループワーク貢献度(30%)・発表(40%) 医療従事者として健康を維持・増進するための実践努力の成果(自己評価)も含め、評価します。 レポート課題とともにグループワークへの貢献度についても評価します。
その他 受講生への要望等	リハビリテーション栄養の重要性について理解を深めて欲しいです。 授業内容の変更の可能性があります。ご理解ください。

授業科目名	管理運営研究論		実務経験講師	○
担当教員名	①中澤文亮 ①田村勇樹 他		実務経験	①作業療法士
開講年度	2026 年度	学 期	後期	
年 次	4 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	作業療法士として臨床に出た際、物品・部門・人などを管理された組織に所属することになる。組織の一員として所属するための基盤を形成する。数年後にはマネジメントする立場になる場合もある。そのマネジメントに必要な技術や知識を学ぶ機会とする。			
授業科目の到達目標	作業療法部門の管理・運営についての基礎知識を学ぶ。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	中澤	オリエンテーション・職業倫理①	講義	
2	中澤・田村	職業倫理②	演習	
3	田村	守秘義務・業務管理・診療記録	講義	
4	田村	コンプライアンス	講義	
5	中澤	労務管理	講義	
6	田村	リスクマネジメント	講義	
7	大橋	感染対策	講義	
8	中澤	組織の成り立ちとマネジメント	講義	
9	稲毛	他職種連携と地域連携	講義	
10	各教員	他職種連携と地域連携(IPE)	演習	
11	野尻	養成教育と卒後教育	講義	
12	中澤	職能団体の役割	講義	
13	外部講師	部署管理の実際①	講義	
14	外部講師	部署管理の実際②	講義	
15		定期試験	講義	

使用テキスト	特に指定しない
参考書・資料 等	野本義則編：作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業療法管理学,2024
この授業科目の前提となる主な科目	地域作業療法学 I・II、臨床実習
この授業科目から発展する主な科目	卒業研究
成績評価の方法	定期試験(100%)
その他 受講生への要望等	作業療法士として必要な知識や考え方になります。この講義の中でも国家試験でも問われる内容も増えています。演習も含むため積極的に参加しましょう。

授業科目名	地域作業療法学Ⅱ(地域保健福祉論)		実務経験講師	○
担当教員名	①細井 直人 ①金子 操 他		実務経験	①理学療法士
開講年度	2026年度	学 期	後期	
年 次	4年次	授業回数	15回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	① 地域リハビリテーションにおける歴史・制度・システムを理解する。 ② 地域包括ケアに向けたこれからの医療や介護サービスの変化・現状を知る。 ③ リハビリ専門職に係わる業務について知り、それを役立てるシステム等について考え・学ぶ。			
授業科目の到達目標	① 地域包括ケアとリハビリテーションについてシステムを理解する。 ② 精神障がい者の地域生活支援について理解する。 ③ 障がい者スポーツを学び実際に体験する。 ④ 在宅分野でのPT・OTの実際について学ぶ。 ⑤ 自分のなりたいPT・OT像を踏まえグループワークができ、発表ができる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 1	講義	
2	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 2	講義	
3	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 3	講義	
4	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 4	講義	
5	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 5	講義	
6	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 6	講義	
7	金子	在宅分野でのPT・OTの実際	講義	
8	金子	在宅分野でのPT・OTの実際	講義	
9	外部講師	地域包括ケアにおけるPT・OTの役割 ～市町村の立場から～	講義	
10	山口・須藤	精神障がい者の地域生活支援	講義	
11	山口・須藤	地域を知り、関係性を繋ぐ支援を考える	講義・演習	
12	駒崎	障がい者スポーツ支援活動について	講義・演習	
13	駒崎	障がい者スポーツ支援活動について	講義・演習	
14	IPE	地域で活躍する専門職の役割～多職種連携活動を通じて～	演習	
15	芳澤	定期試験	試験	

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	1)地域リハビリテーション論 太田仁史著 三輪書店 2)地域リハビリテーション学テキスト 和田多穂監修 南江堂 3)訪問リハビリテーション実践テキスト 全国訪問リハビリテーション研究会編
この授業科目の前提となる主な科目	精神医学 評価実習 臨床実習
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	筆記試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	臨床実習		実務経験講師	○
担当教員名	①臨床実習指導者 ①大橋由美子 ①野尻真生 ①稲毛優希 ①中澤文亮 ①田村勇樹		実務経験	①作業療法士
開講年度	2026年度	学 期	前期	
年 次	4年次	授業回数	1週45時間×9週間 1週45時間×8週間	
単 位 数	17単位	単位時間数	765時間	
授業科目の概要	臨床実習指導者のスーパーバイズのもと、作業療法評価ならびに治療について体系的に習得する。			
授業科目の到達目標	①臨床実習に対しての目標を設定できる。 ②臨場実習指導者監督下にて評価ならびに治療の計画・実施・振り返りができる。 ③実習経験についてデイリーノート・ケースノートにまとめ提出できる。 ④実習経験について要点をまとめた報告書(レジュメ)を提出できる。 ⑤実習経験について知識・技術(技能)・態度の3側面から振り返ることができる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	臨床実習Ⅰ(9週間)	実習	
2	臨床実習Ⅱ(8週間)	実習	

使用テキスト	特になし
参考書・資料 等	特になし
この授業科目の前提となる主な科目	3年次までのすべての科目(特に作業療法専門科目、評価実習)
この授業科目から発展する主な科目	4年次臨床実習セミナー、卒業研究
成績評価の方法	臨床実習Ⅰ・Ⅱの総合評定
その他 受講生への要望等	作業療法士を目指す上で必要な経験となります。積極的な態度で臨んでください。

授業科目名	地域実習		実務経験講師	○
担当教員名	①臨床実習指導者 ①大橋由美子 ①野尻真生 ①稲毛優希 ①中澤文亮 ①田村勇樹		実務経験	①作業療法士
開講年度	2026年度	学 期	前期	
年 次	4年次	授業回数	1週45時間	
単 位 数	1単位	単位時間数	40時間	
授業科目の概要	地域で作業療法を展開する臨床実習指導者のスーパーバイズのもと、地域における作業療法士と社会参加支援のあり方を習得する。			
授業科目の到達目標	①地域における作業療法士の支援の方法とその役割を理解できる。 ②地域で生活する方々の生活課題を明らかにすることができる。 ③地域リハビリテーションにおける多職種連携の理解を深めることができる。 ④実習経験について要点をまとめた報告書(レジュメ)を提出できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	地域実習(1週間)	実習	

使用テキスト	特になし
参考書・資料 等	特になし
この授業科目の前提となる 主な科目	3年次までのすべての科目(特に作業療法専門科目、評価実習)
この授業科目から発展する 主な科目	4年次臨床実習セミナー、卒業研究
成績評価の方法	実習全体を通しての総合判定
その他 受講生への要望等	作業療法士を目指す上で必要な経験となります。積極的な態度で臨んでください。

授業科目名	臨床実習セミナー		実務経験講師	○
担当教員名	①大橋由美子 ①野尻真生 ①稲毛優希 ①中澤文亮 ①田村勇樹		実務経験	①作業療法士
開講年度	2026年度	学 期	前期	
年 次	4年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	臨床実習の各期終了時に学内セミナーを実施し、各自の症例について全員と分かち合うことで、次期の実習や今後活かす。			
授業科目の到達目標	① 実習経験について、要点をまとめたレジュメを提出できる。 ② 実習経験について、要点をまとめ発表できる。 ③ 実習経験について、意見交換ができる。 ④ 発表症例に対して、治療プログラムの振り返りができる。 ⑤ 発表症例に対して、多方面から治療プログラムを検討できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1～4	症例検討会:身体障害分野(1期目)	症例検討会	
5～7	症例検討会:精神保健分野(1期目)	症例検討会	
8～11	症例検討会:身体障害分野(2期目)	症例検討会	
12～14	症例検討会:精神障害分野(2期目)	症例検討会	
15	施設報告会:地域実習領域	施設報告会	

使用テキスト	特に指定なし
参考書・資料 等	特になし
この授業科目の前提となる主な科目	3年時後期までのすべての科目(特に作業療法専門科目)
この授業科目から発展する主な科目	卒業研究
成績評価の方法	レジュメ提出・内容、発表ならびに質疑応答の内容
その他 受講生への要望等	発表に関しては PowerPoint での発表になります。内容および構成や発表時間などが評価対象になります。事前準備をしっかり行い臨床実習セミナーに臨んで下さい。

授業科目名	栄養学		実務経験講師	○
担当教員名	大出 理香		実務経験	管理栄養士
開講年度	2026 年度	学 期	後期	
年 次	4 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	栄養と代謝、リハビリテーション栄養の基礎知識を学ぶ。			
授業科目の到達目標	自分自身の健康維持・増進に反映できる食生活について理解し、対象者の健康状態に合わせたワンポイントアドバイスができるようになることを目標とする。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	生化学・栄養学とは	講義・個人ワーク	
2	生化学・栄養学に必要な基礎化学	講義・個人ワーク	小テスト
3	蛋白質とアミノ酸	講義・個人ワーク	
4	酵素・ホルモン	講義・個人ワーク	小テスト
5	糖質・脂質の代謝	講義・個人ワーク	
6	ビタミン	講義・個人ワーク	小テスト
7	消化と吸収	講義・個人ワーク	
8	エネルギー代謝	講義・個人ワーク	小テスト
9	運動と栄養	講義・個人ワーク	
10	リハビリテーションと栄養	講義・個人ワーク	小テスト
11	栄養評価	講義・個人ワーク	
12	主な病態の栄養管理	講義・個人ワーク	小テスト
13	静脈栄養・経腸栄養法	講義・個人ワーク	
14	栄養と摂食嚥下	講義・個人ワーク	小テスト
15	期末試験	試験	

使用テキスト	リハベーシック 生化学・栄養学 第2版 医歯薬出版株式会社
参考書・資料 等	PT・OT・ST のためのリハビリテーション栄養第2版 栄養ケアがリハを変える 医歯薬出版 リハビリテーション医学・医療における栄養管理テキスト 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	生理学
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	評価は筆記試験で行う。筆記試験は後期定期試験(100%)で評価する。評価は学則規定に準ずる。
その他 受講生への要望等	栄養学を学びリハビリテーションとの関連性について理解を深めて欲しいです。 授業内容の変更の可能性があります。ご理解ください。

授業科目名	基礎知識の統合		実務経験講師	○
担当教員名	①中澤文亮 ①田村勇樹 ①野尻真生 他		実務経験	①作業療法士
開講年度	2026 年度	学 期	後期	
年 次	4 年次	授業回数	60 回	
単 位 数	8 単位	単位時間数	120 時間	
授業科目の概要	この授業は、国家試験に向けてこれまでの授業・演習・実習等で学んだ知識や技術を統合整理し、作業療法士として臨床に望むべく、各々の定着を図ることを目的に行う。			
授業科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去国家試験(以下の科目)について解説を交えながら回答できる。 ・ 基礎医学科目(解剖学, 生理学, 運動学) ・ 臨床医学科目(人間発達学・小児科学, 内科学, 臨床神経学, 臨床心理学, 精神医学, 整形外科, リハビリテーション概論) ・ 専門科目(作業活動, 作業療法概論, 評価法, ADL, 義肢装具, 老年期障害, 脳血管障害, 神経変性・筋障害, 内科学, 脊髄損傷, 関節リウマチ・整形外科疾患・精神障害・小児科学) 			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	中澤・野尻	オリエンテーション 国家試験までのスケジュールリング	講義	
2~50	中澤	基礎医学、臨床医学、専門科目	演習	
51	中澤	校内模試①(三科目模試)	筆記試験	
52	中澤	校内模試②(三科目模試)	筆記試験	
53	中澤	校内模試③(全科目)	筆記試験	
54	中澤	校内模試④(全科目)	筆記試験	
55	中澤	校内模試⑤(外部模試)	筆記試験	
56	中澤	校内模試⑥(外部模試)	筆記試験	
57	中澤	校内模試⑦(全科目)	筆記試験	
58	中澤	校内模試⑧(外部模試)	筆記試験	
59	中澤	中間試験	筆記試験	試験
60	中澤	期末試験	筆記試験	試験

使用テキスト	1) クエスチョンバンク理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題 メディックメディア 2) クエスチョンバンク理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 専門問題 メディックメディア
参考書・資料 等	1) PT・OT 基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編 南江堂 2) PT・OT 基礎固め ヒント式トレーニング 臨床医学編 南江堂
この授業科目の前提となる主な科目	4 年間学んできた全ての科目
この授業科目から発展する主な科目	なし
成績評価の方法	中間試験(50%) 期末試験(50%)
その他 受講生への要望等	国家試験合格に向けての国家試験対策の授業です。1 回 1 回の授業を大切に蓄積していきましょう

授業科目名	卒業研究		実務経験講師	○
担当教員名	①田村勇樹 ①中澤文亮他		実務経験	①作業療法士
開講年度	2026年度	学 期	後期	
年 次	4年次	授業回数	30回	
単 位 数	4単位	単位時間数	60時間	
授業科目の概要	今後の臨床活動を踏まえて、これまでの知識や技術を最大限に活かし、抄録およびポスターとして総括し発表する。			
授業科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習経験や臨床実習等の経験に基づき、その成果を主体的にまとめることができる。 ・まとめた抄録およびポスターを適切な技術(挨拶、課題内容の分かりやすさ、発声の明瞭さ、抑揚、視線、ジェスチャーなど)を用いて、発表することができる。 			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	中澤	オリエンテーション・文献の探し方	講義・演習	
2	田村	研究法	講義	
3	田村	研究のプロセス	講義	
4	田村	研究倫理	講義	
5	田村	文献研究の基礎	講義・演習	
6	野尻	研究の発表①	講義	
7	野尻	研究の発表②	講義	
8~26	全教員	文献検索、卒業研究作成、担当教員からのフィードバック 等	各担当教員指導のもと、研究をまとめる	適宜
27~30	全教員	卒業研究発表会	発表	抄録の提出 ポスター発表

使用テキスト	指定なし
参考書・資料 等	適宜紹介する
この授業科目の前提となる主な科目	臨床実習を主とした全科目
この授業科目から発展する主な科目	なし
成績評価の方法	1)研究成果の作成プロセス 2)抄録およびポスターの内容 3)発表の態度及び内容
その他 受講生への要望等	4年間の学習の集大成として、主体的に研究に臨んでください。自身の経験に基づく、疑問点や課題点に一步踏み込む機会となるよう取り組んでください。卒業研究の経験が、卒後の継続的な学習や研究につながることを期待します。